

## 人を送る。

人はなぜ人を送るのでしょうか。

ひとつは、祈るためです。

仏さま、どうぞ亡き人をお導きください、  
安らかでありますようにと祈ります。

ふたつは、お知らせです。

地域社会や友人に、亡くなったことを通知し、  
お別れの挨拶をしていただきます。

みつつは、生きる人の心のためです。

手を合わせ祈ることや、集まった人と語らうことで、

私たちは、少しずつ心の健康を取り戻します。

悲しさの隣には、送るあたたかさがあります。



## 仏事と食。

お齋<sup>とけ</sup>、精進<sup>しんじん</sup>落<sup>おち</sup>とし、忌中<sup>きちゆう</sup>払いなど、地域や宗派、

場面によって名前が異なります。

お釈迦さまの教えを思いかえす、

供養の特別期間が終わる食事など、

由来も様々です。今、共通するのは

「思い出話をお聞かせください」との挨拶<sup>あいさつ</sup>が

定型句となっていることでしょう。

話せば「そうそう」と納得のことから「あら、そんなことも？」と、  
亡くなってなお新たに知る一面があるかもしれません。

お葬式の日だって笑って大丈夫。楽しい思い出があるのですから。

ここでいただく食事は、身体の力になることはもちろん、

心にも栄養を届けてくれます。

